
夕暮れのスナイパー

いおすけ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夕暮れのスナイパー

【Zコード】

Z6379C

【作者名】

いおすけ

【あらすじ】

俺はスナイパー狙つた獲物は逃がさない。

夏の日。

夕暮れに時折吹く風。
木の枝が風を受けて
ゆっくりと上下に頭を振る。

今回のターゲットは大物だ。
仲間はみんな尻込みをして、やる前から諦めた。

だが俺は違う。

それが困難であればあるほど
そして大きければ大きいほど。
俺の中の獣が頭をもたげ
獲物への動物的な欲望が俺を支配する。

準備は整った。

銃口と獲物の間には

夏の湿つた風の他にやえぎるものは何も無い。

俺は一つ息を吐き出し
トリガーに指をかけた。

その時、風が止まった。

今まで聞こえていた雑音も今は聞こえない。
景色はその色を失い、
俺の目は獲物以外を映すことを放棄した。

獲物と俺だけの静寂の世界。

俺はこの瞬間がたまらなく好きだ。
研ぎ澄まされた集中力が
俺にこの世界を見てくれる。

このとき、銃は俺の体の一部になる。
トリガーに掛けた指が機械的に動く。
そして放たれた弾丸は
イメージ通りの軌跡を描いて
獲物に吸い込まれてゆく。

「はい、残念。また挑戦してね。」

俺の手から、銃が奪われる。

「だから大きすぎるとつて言つたじやん。」
弟の声がする。

戻ってきた喧騒の中、俺は弟にたずねた。

「小銭あまつてない？」

「ねーよ」

焼きそばを買いに去つていいく弟の後姿を見送ると

俺は次の戦場へ向かう

そう

射的の次は金魚すくいと決まっている。

今年こそ黒い出田金をゲットするのだ。

色を変えた空に

屋台の提灯が鮮やかに映える。

今年の夏はやけに暑い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6379c/>

夕暮れのスナイパー

2011年1月18日21時04分発行